



安心して話せる関係作りを表現する力がまだ十分ではありませんが、「話したい」という気持ちは強く持っている子どもたち。そうした気持ちを存分に満たすことができるように、安心して話せる関係作りを心がけています。

section 23 3歳児の保育

自我の確立期—世界がぐんぐん広がります

3歳児は自分の気持ちも行動もしっかりわかってきます。

家族・友だち・先生など周りの人間関係や時間と空間の理解が進むからです。興味や関心が高まるため、「何でも自分でできる」という意識が育ち、大人の手助けを拒むことが多くなります。

「楽しかった」「おもしろかった」「気持ち良かった」という満足と自信を育てることが大切です。それには大人の励ましが必要です。

遊びながら学び、学びながら育つ 友だちとのふれ合いを大切にします



友だちと楽しく関わられるようサポートします

3歳児は集団行動の入り口です。友だちに意識を向けるようになり、かけっこ、鬼ごっこなどを一緒に群れて遊ぶようになります。その中で、自分の気持ちを友だちに伝えたり、話を聞いたりすることができるように、保育者がさりげなく援助しています。また、同じような気持ちがぶつかり合いますから、ケンカも多く見られます。毎日のくり返しの中で、完全ではありませんが、大人に見守られながら、自分で散歩用の着替えやタオルをリュックに支度することができるようになっていたり、排泄では便の後始末の仕方を覚えたりなど、身の回りのことが自立に向かいます。



自立と自律の芽生え

自分の気持ちをコントロールする自律の心が芽生えてくるので、自分でやることは自分でしようとする気持ちが大切になってきます。できることは自分でさせてあげ、達成感を積み重ねて自信をつけていきます。その子の持っている少し上のことに挑戦すると、より集中力が高まり、喜びも大きなものになり、自信につながっていきます。



遊びがどんどん豊かに

歩く距離も伸び、走るスピードも速くなります。跳ぶ、握るなどの機能も安定し、色々な運動遊びをするようになります。三輪車やブランコに乗ったり、固定遊具で遊んだり、どろんこ遊びでの山や川も大きくなり、トンネル作りも大人と一緒に壊れないように作ります。

またごっこ遊びが発展して、絵本や紙芝居を土台に簡単な劇ごっこ(「3びきのやぎのがらがらどん」「大きなかぶ」)を楽しむようになり、絵をたくさん描くことで、表現力、想像力を育てています。



4歳までにこんなことができていると良いね!

- ケンケン跳びができる
- ひとりトイレに行ける
- お箸が使える
- スキップができる(4歳頃～)
- ひとりで遊べる(絵を描いたり、積み木をしたり)
- じゃんけんができる
- 友だちと遊べる(3～4人で遊ぶことを楽しめる)

ワンポイントアドバイス



大人は心の拠り所

子どもが育つ上では、子どもが安心して寄り添える大人の存在が大切です。

友だちと遊ぶ中で、感じたこと、考えたこと、ケンカやトラブルなど、子どもはそのたびに心の基地である大人と共有したいと思っています。そんなときは、まずはやさしく抱いてあげてください。大人のひざや胸の中で気持ちの安定を得て、再び遊びに向かっているはずですよ。

